

文芸

俳句

無住寺の鐘撞く人や春うらら

池田 逸子

年代の雛段かざる老舗かな

伊藤 敬子

東風吹かば詠じし父の忌の近し

今関満喜子

幸せの願いいつぱいつるし雛

魚地 照子

日の暮を梅の白さが止めけり

川島 通則

特攻の基地を巡るや春の雨

向後 寛

如月の黄泉路寂ぶかる妹よ

越川せつ子

コーヒーを紐のごときに春注ぐ

小松 藤男

鯰鰯の夜は深深鍋たぎる

佐瀬 輝夫

大笑ひして細胞の芽吹きをり

椎名万里子

冴ゆる夜のはたと止まりし救急車

市東富美江

春の野はいのち溢れしものばかり

鈴木とし子

春の風一万歩ゆく背にやさし
土屋美枝子
寒明ける父母のゐて弟ゐて
土屋 義昭

スケッチを猫のぞきくる小六月
早川 勇

籠り来し日々立春に封を切る
藤田 雅夫

西山満里子

短歌

まじり得ぬ線路のようと思ひしが
貴方と私対なる車輪
越川 義則

残り火をもやし定年なき二人
つかず離れずマイペースの日々
高梨 キヨ

畦道に置れし枝を取りのぞき
白くびつしり春を待つ草
内藤 くに

.....

幾千のひかり湖面に煌めきて
銀色の糸紡ぎるるやう
八角 三枝

水仙の香りただようをくずれの
里に嫗ら語りつつ行く
加瀬 弘子

.....

この冬を伸ばせし髪がやはらかに
首の後ろを温めくれたり
西山満里子

穏やかな春の陽射しに小松菜は
茎立ちゆけり花芽をつけて
押尾 輝子

言葉とは良きも悪しきもとる人の
思いのままと気付くこの頃
椎名美枝子

おしげなくオレンジ挽ぎて下さりし
友の畑に味はひて食む
田崎 尚美

上空に寒冷前線居すわりて
畑ににより霜柱立つ
浅野 榮子

新春の町内駅伝小学生
己が頬打ちスタートに立つ
水須 俊

近づける春が遠のく気配して
厚き霜置く今朝のさ庭辺
芹川 初子

語り合う姪は自慢す小一の
孫は左きき文字の美しとふ
青木 秀子

朝空に浮く白雲を見上げると
五百羅漢と今朝は名づけぬ
斉藤つね子

こうほう博物館 85

石のお大師様

桜がほころぶ頃になると、白装束に杖をもった巡礼姿で歩く人々を見かけることがある。話を伺うと、町の各地にあるお大師様を巡拝して歩く「大師講」であるという。町内でもお寺の境内などで、石で彫られたお坊さんの像をよく見かける。右手に五鈷杵を持っていることから、弘法大師様とわかり、石の台座には第四十八番などの番号が彫られている。

この石のお大師様の多くは、江戸時代に全国的に四国八十八箇所詣りが流行ったときに造られたものだという。同時に大師信仰も盛り上がり、身近に八十八箇所詣りや大師参りができるように、こうした石のお大師様を各地に建てた。

写真は、橋場放光院境内の石のお大師様で、ほかに小堂に木造のお大師様が安置されている。古川地区にも、八十八箇所分のお大師様を並べた大師講があり、いずれも大師講が盛んであった頃の名残である。

せひ、どこかのお大師様をお参りしてみたいかがですか。

(社会文化課 道澤 明)



▲橋場放光院の石のお大師様

作品展

- ◎町民会館ミニギャラリー
 - 4月 絵手紙ひかりの詩
 - 5月 展示なし
- ◎文化会館ロビー展
 - 4月 アート押し花クラブ
 - 5月 展示なし
- ◎サビア展
 - 4月 華舟会
 - 5月 展示なし
- ◎銚子商工信用組合展
 - 4月 展示なし
 - 5月 展示なし